

令和3年度事業計画（案）

設立以来20年を経過し、社会環境等が大きく変化しており、SDGsに象徴されるように「環境」、「文化」、「経済」という枠を越えた取組みが求められるなど、活動の軌道修正を迫られている。

現在、運営委員会内に設置した検討委員会において、現状を見つめ直し、成果と課題を検証するとともに、将来を見据えた推進方向の案について次のような柱建てで検討しており（別紙《検討素案》（模式図）参照）、これに沿った形で事業計画を再編した。

なお、実施に必要な財源（助成金等）が確定していない事業も計画に盛り込んでいる。

◎ 最上川フォーラムのミッションの再定義：SDGsを原動力として『豊かな自然環境と文化が息づく魅力的な山形づくり』を推進する

活動の柱1：将来を担う世代の育成《教育・啓発》

学校教育や地域活動、企業の社会貢献活動等において、児童生徒や青年世代が地球温暖化や海洋マイクロプラスチックなど地球規模の環境課題に関心を持ち、身近なところから行動を起こす取組みをとおして、地域に誇りと愛着を育むような活動を積極的に展開する。

活動の柱2：地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

散乱ごみなどの環境問題や、近年の気候変動の激化に伴う水害対策など、流域全体の視野に立ち、連携して地域の課題解決に取り組む活動を推進する。

活動の柱3：環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

自然環境が豊かであることや、歴史と伝統に裏打ちされた文化が息づいていることは、観光のアドバンテージや移住等のインセンティブになり得ることから、そのような環境遺産や文化遺産等について、学び、守り、磨きをかけ、つなぎ、発信する取組みを支援する。

将来を担う世代の育成 《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断

(1) 実施期間

世界環境デーに合わせ6月5日～13日の原則の実施期間は設けるものの、新型コロナウイルス感染症や天候不順などの状況に対応して10月22日までとし、安全に実施できるよう期間を延長。

(2) 参加申し込みは、原則の調査期間に合わせ、5月21日の締め切りを設けるが、実施期間中随時申し込みを受け付ける。

(3) 実施検討会を4月20日に開催し、実施体制など詳細について検討・決定。

参加者は例年同様に国・県の関係行政機関、地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々。リモート参加も可能とし開催。

(4) 調査補助指導者の派遣

新規参加者や学校などで参加する場合に、要望があれば、地域部会や会員専門機関に協力をいただき、事前講習や現地調査補助を積極的に行う。

(5) 水生生物調査

主催の山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては、「身近な川や水辺の健康診断」との同時申込可能として募集する。

(6) 透視度計

例年どおり、各地域において貸出担当者・場所について協力をいただき、参加者からの申込みにより貸し出す。

(7) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として50地点分の器材の提供を受け、調査結果50地点分を提出予定。

(8) 調査結果集計は、引き続き公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て「水辺診断書」としてレーダーチャートを作成する。

2 「捨てない・捨てさせない」ゴミ発生源対策の啓発

(1) スポGOMI大会の開催 (別紙資料4を参照)

海岸漂着物問題対策の普及啓発等として、県内各地で市町村や地域の団体等と連携して開催する。リアル大会のほか、スマートフォンやZoomを活用し、広域での同時開催により海ごみ問題を身近に感じる機会を提供する。

(2) 海岸漂着物問題普及啓発出前講座

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施にあわせ、小中学生等に対して出前講座を実施する。

(3) 商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施

会場を屋外にしてパネルや見本の展示を中心に行うなど、新型コロナウイルス感染症対策をとった実施内容を検討する。

(4) ゴミ回収体験やパネルやゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進

・4月11日新庄市高校生ボランティアサークルしずく(新庄市社会教育課) ゴミ拾いイベントへの協力。

・5月19日～県庁じょんだなホールにて県循環型社会推進課への海岸漂着物展示協力。

(5) 環境教育のためのゴミ標本や資材等の見直し、整備

オンラインやYouTubeを活用した啓発、啓発資材の貸出し、出張やオンラインでの説明。

スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムの提案。(観光や地域経済活性化の一環として、学校や企業、観光事業者にも提案)

(6) 山形県海岸漂着物問題推進協議会との連携

・6月4日 令和3年度山形県海岸漂着物対策推進協議会総会に出席

(7) 川ごみ団体との連携

・5月18日オンライン総会(欠席)

(8) 「海と日本プロジェクト」との連携

・4月26日銀山温泉ゴミ回収、海岸漂着物WS協力。

・5月22日拾い箱設置への協力、ゴミ回収調査(山形市・鶴岡市)他随時更新。

・5月26日海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ドリームやまがた里山プロジェクト総会出席。

・5月30日モンテディオ山形ホームゲームでの回収体験、標本展示。

(9) 企業や団体との連携強化 スポGOMI大会等へのボランティア参加、参画の推進

・ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、NPO 法人公益のふるさと創り鶴岡、新庄市体育協会、長井市教育委員会、セブンイレブン、JT、(株)ダイナムなど

・山形県青年の家「夏の体験ボランティア」企画

・6月19日・20日 ゴミ拾いはスポーツだ サンセット・サンライズ由良大会へのボランティア募集

(10) ホームページ「最上川環境マップ」の整備

美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン、スポGOMI大会の予定や結果を随時更新し、実施場所検索の効率化を図る。

3 報告書「笑顔を写す山形の川」

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告する。
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を作成印刷し、実施団体や学校等へ配布する。

4 美しい山形・最上川サポーター（仮称）の創設

(1) 趣旨

若い世代を中心に、最上川フォーラムが推進する『豊かな自然環境と文化が息づく魅力的な山形づくり』に参加する方々をサポーターとして確保し、活動のすそ野を広げるとともに、将来にわたって継続的に育成していく。

(2) 制度の概要

簡易なアプリを使用し、参加状況に応じてランクアップすることで活動参加の動機付けとなるほか、リモートでの活動や交流ができる仕組みを構築したい。

5 広報啓発

- ・環境展のブースへの出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策や令和2年度に作成した湧水利用の動画等を中心として、清流環境対策部会事業や当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に努める。
- ・映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会を立ち上げ、事務局として活動。上映に併せ、フォーラム山形にて海岸漂着物標本、啓発資料展示。
環境教育プログラムの一環として、自主上映につなげ、海岸漂着物問題啓発資材も活用し、環境保全の啓発、活動の拡がりを目指す。

山形国際ドキュメンタリー映画祭、フォーラム山形、海と日本プロジェクトとの連携。

※最新情報、自主上映希望等はFBページにて更新。→



- ・5月6日～18日県庁じょんだなホールにて県水大気環境課の湧水展示に協力。
- ・6月 遊学館にて県水大気環境課の湧水展示に協力
- ・YouTubeチャンネルの活用、動画による発信を増やし、ホームページを随時更新していく。

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン

- (1) 実施期間 年度通して募集 クリーンアップ全国事務局へは10月末までのデータを提供。
- (2) 1グループ当たり一律3千円の支援費を想定。
- (3) イベントとのコラボレーションを継続して実施する。スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催。
- (4) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」にデータを提供する。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進

第3次山形県循環型社会形成推進計画において、「海岸漂着物等の回収及び発生抑制の促進」が掲げられ、「陸域部における海洋ごみの発生抑制対策の効果を検証するため、河川等における散乱ごみの実態を把握するモニタリング調査」を行うこととされている。

当フォーラムとしてもモニタリング体制の構築及び発生抑制対策の具体化に向けた検討及び活動に参加していく。

3 流域防災の推進

(1) 趣旨

令和2年7月の最上川氾濫被害はじめ、頻発する水害に対する県民の関心が高まっている。

流域全体での防災（流域治水対策）のニーズに対応するため、最上川フォーラムが河川管理者及び流域の各団体等と連携して啓発活動の一翼を担っていきたい。

(2) 取組みの概要

流域の住民やボランティア団体等をつないでネットワーク化し、住民が自ら考え行動する契機となるような情報共有機会を提供する役割を果たしていく。

河川愛護や地域文化継承の活動と併せ、防災を柱の一つに位置付け、ワークショップやシンポジウムの開催など、啓発事業を実施していく。

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

(1) 維持管理等の相談に関して、全市町村・継続団体に対して要望調査を行い、樹木医を派遣する。

- ・4月15日 天童市石鳥居の桜診断（天童市教育委員会）
- ・5月16日 金山町風の丘公園 有屋小学校閉校記念行事に伴う桜植樹土壌診断（金山町立有屋小学校）

(2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、地域資源としての桜を活かすための研修会等を地域部会と連携して開催する。緑化推進事業助成金活用。

鶴岡市3回、天童市、金山町にて実施予定。

(3) 東日本大震災復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八ヶ所巡り」

「東北・夢の桜街道推進協議会」メンバーとして継続参加。

(4) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜をSNSで紹介。InstagramなどSNSを活用した多言語での最上川・山形の桜の魅力を県内外、国外へも発信していく。

2 桜や水辺の写真を活用した地域活性化

(1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。

6月12日～8月1日：飯豊町源流の森（予定）やまがた森林（もり）と緑の推進機構との連携。

(2) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」

全市町村に展示箇所の照会を行い、令和3年3月下旬から市町村の協力を得て巡回。

「東北・夢の桜街道～桜の札所八十八ヶ所巡り」のPR、桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行う。

- ・3月22日～4月2日：上山市役所1階ロビー
- ・4月5日～16日：朝日町エコミュージアムコアセンター創遊館ギャラリー
- ・4月17日～22日：大石田町民交流センター「虹のプラザ」

- ・4月26日～30日：山形市役所エントランスホール
- ・5月1日～5日：上山城郷土資料館
- ・5月6日～14日：東根市役所1階ロビー、壽屋寿香蔵
- ・5月17日～28日：川西町役場新庁舎ロビー
- ・5月29日～6月11日：白鷹町中央公民館町民ラウンジ
- ・4月12日～5月9日：県立図書館「サクラ咲く図書館」に桜の写真展示協力。

3 湧水活用事業

「里の名水・やまがた百選」・「環境省選定」湧水を地域の環境資産として着目し、プロモーション動画、ポストカード等の作成、SNS等での発信することにより活用促進を図り、周辺環境も含めた豊かな自然を保全し、地域の活性化につなげる取組みを支援する。

- (1) 湧水の魅力を多くの人々に知ってもらうため、動画作成による情報発信、現地を訪ねる参加型イベントを実施する。
- (2) 各種イベント会場でのプロモーションの実施、アンケートによるリサーチとフィードバックを行い、地域活性化策の検討に活用する。

4 地域おこしの紙芝居作成

- ・過年度に作成した海岸漂着物紙芝居の上映、貸し出しの積極的な発信と動画、英語版作成などによる広い活用。
- ・2019年度からの継続した取組みとして、村山・置賜地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居を製作する（大石田町と最上川229ネットワーク（白鷹町）が連携）。
- ・紙芝居製作のための取材、企画を村山・置賜地域部会連携により進める（村山市）。
- ・10作品完成に向けて、これまで製作して来た紙芝居の活用法やフォーラム開催等の検討。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり（上記 6「地域おこしの紙芝居作成」の項目参照）
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等への協力
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
5月30日白鷹町予定

◇村山地域部会

- (1) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」開催
- (2) 桜の維持管理活動への協力
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
- (4) 「やまがた環境展」出展の際はスタッフとして参加協力
- (5) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (6) 置賜地域部会と連携した紙芝居づくり（上記 6「地域おこしの紙芝居作成」の項目参照）

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけを行う。
- (2) 「スポGOMI 大会」への協力
4月29日新庄市（オンラインに変更）・5月16日金山町遊学の森
- (3) 桜を守り育てる研修会開催 12月予定
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (2) 「スポGOMI 大会」の開催6・9月鶴岡市予定
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」5・10・11月予定、地域の要望に沿った形で開催を検討する。

全 体

1 総会・運営委員会・部会

- 通常総会（7月）
- 運営委員会（5月31日、11月、3月）
- 合同部会（11月、3月）

2 会員拡大の取組み

- (1) 個人会員の募集
引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て、会員募集キャンペーンを実施する。
- (2) 法人会員の募集
 - ① 商工団体や法人団体等に対する訪問及びプレゼンテーションについて、新型コロナウイルス感染対策の状況等を見極めながら、県の協力を得て実施に向けて調整する。
 - ② 引き続き、法人及び団体の会員に対し、会費増額（一口3千円を1万円以上に増額）の要請を行っていく。
- (3) 勧誘ツールの整備
「活動参加の手引き」など、最上川フォーラムへの入会や活動参加、支援につながるツールを整備する。

3 将来を見据えた活動の指針づくり

- (1) 趣旨
設立20周年を迎える最上川フォーラムの活動について、社会・経済・環境の変化を踏まえつつ現状を見つめ直し、これまでの成果と課題を共通認識として、今後数十年の将来を見据えた活動の推進方向を検討する。
- (2) 検討の進め方
運営委員会内に、正副の会長及び部会長、地域部会長ほかで構成する検討委員会を設置し、令和3年度中に3回程度開催し策定を完了したい。（別紙《検討素案》（模式図）を参照）

4 SDG s への取り組み

『豊かな自然環境と文化が息づく魅力的な山形づくり』を推進するため、様々な主体と連携して取り組みを進める。

- ・山形大学YU-SDG s パートナー団体への登録（やまがたSDG s 推進ネットワーク）
- ・9月23日 SDG s フェスタ（仮）へのブース協力予定

5 設立20周年事業の検討

- ・美しい山形・最上川サポーター制度の創設、流域防災の推進を二大テーマとして実施を検討する。
- ・令和4年度に本県を会場に開催が計画されている「水シンポジウム」（土木学会水工学委員会主催）について、情報収集及び準備検討を進める。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 山形県委託事業
 - ・事業名：令和3年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務
スポ GOMI 大会開催、海岸漂着物問題普及啓発出張講座、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施
- (2) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
- (3) 東北・夢の桜街道推進協議会のメンバーとして「東北・夢の桜街道～桜の札所八十八ヵ所巡り」の推進
- (4) 全国川ごみネットワークとの連携
- (5) 国、県や企業・団体とのコラボレーション事業など連携の強化
普及啓発活動の推進等
- (6) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
事務局長設置費各種助成事業
- (7) 基金等への応募や寄付等の獲得、助成等の趣旨に応じた事業の展開
 - ・やまがた社会貢献基金「協働助成事業（テーマ希望型）」
テーマ：テルス(柵)川と海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」
マイクロプラスチックの回収体験WS、環境紙芝居を基にしたミニブックの作成・配布、環境紙芝居の日本語、英語版の動画作成等による発信
 - ・やまがた社会貢献基金「協働助成事業（一般型）」「県政課題部門」
湧水を活用した地域活性化等
 - ・緑化推進事業（やまがた森林(もり)と緑の推進機構）
桜研修会の開催
 - ・水環境保全助成事業（全国浄化槽団体連合会）※申請中
身近な川や水辺の健康診断の実施
 - ・テレビユー山形（株） 海洋ゴミマスターズ in 山形実行委員会 Change for the blue
海岸漂着物問題啓発事業

※敬称略